

2007年12月9日(日)新松戸北小体育館において、タウンミーティングが行われました。その正式な報告は別のところできちんと発表されるのですが、ここでは別の視点から。

😊 わくわくひろば『タウンミーティング』準備編

例によってそれは「百田のひと声」から始まる。「タウンミーティングをやります。テーマは『放課後の子どもの居場所を中心とした地域づくり』って感じかな。パネルディスカッションね。他のパネラーは手配するから、わくわくひろばの事例発表はあなたね。」「え〜?!私い?!」またもやドサクサの中(そうだ、わくわくひろばの創設時と一緒に。)ゲストパネラー達の本拠地である、小学校や児童館へ打ち合わせがてら、見学に行くことにした。

😊 世田谷区 新BOP 😊

この区の小学校の校庭や校舎の一部が、毎日全部の小学生に提供されているのだからすごい!校門が施錠バッチリなものすごい!PP(プレイング・パートナー)と呼ばれる若者がいっぱいいるのもすごい!それを「区」がやってるのがすごい!

でも、松野さんの最初の自慢は、草ぼうぼうの中庭だった。土に触れ、季節を感じ、虫をみつけて遊べる中庭。BOP(Base of Playing)(遊びから学ぶ・遊びで育つ)の理念を自信を持ってニコニコと嬉しそうに説明してくださる、その笑顔は楽しくてしょうがなさそう!



新BOP 赤堤小(世田谷区)
松野氏

予算的な事は羨むしかない部分もあるけど、地域ぐるみの取り組み…教科書からは学べない学び・気付き・発見・経験…そういう人的協力は、世田谷で出来るなら松戸でだって出来るよね?「そうよ。出来るわよ。」と松野さんが微笑む。

😊 平野児童館(雲柱社) 😊

明るくて気さくなスタッフ、楽しそうな掲示物、様々な遊びができる部屋、屋上の運動場、学童保育の部屋では何やら自作のダンスの練習♪

乳幼児(&母親)用から小学校高学年用までの多彩な企画・イベント、アウトドアあり、インドアあり、そして障がいを持つ子も来る者拒まず!

子どもの様子に心配があればスタッフから親に電話をかけ、相談にも乗ると言う。…なのに、入口の防犯カメラさえ楽しんでしまう、遊び心!



平野児童館(雲柱社)
大橋氏

「すごッ…」と感心を通り過ぎただ驚く。「私にはとても出来ない」と怖じ気づく自分がいる。でもやっぱり忘れられない。ひとりひとりの子どもを大切に尊ぶ雲柱社のスタッフの理念・真剣さは、「よくやる〜」と呆れられ、敬遠されるべき物じゃない。

「子どもに『おまえら、熱すぎるよ!』と言われたのが嬉しい!」と夢中で話す館長の目は、夢の中の子どものも、現実に側を通る子どもも見ていた。



わくわくひろば『タウンミーティング』当日編



タウンミーティング当日本番…理事長の挨拶。

『放課後子どもプランは、ふたつの事業を一体的に実施するものです。ひとつは、厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」いわゆる「学童」。長い実績のある事業です。もうひとつは、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」です。新規事業となっていますが、平成16年度から18年度の3年間限定事業として実施された「地域子ども教室」の発展型と理解して良いと思います。このふたつの事業をひとつにしようというのが、「子どもプラン」です。保護者が働いている等の理由で昼間家にいない子どもには、「生活の場」を保障しながら、すべての子どもに「遊び」や「体験」、「学び」、そして地域の人との「交流」の場を提供しようというものです。以上が松戸市では、どう実施されているかと言うと、「学童」は、市内44小学校の内40校区に設置されています。このうち28学童の施設は小学校の中にあります。「子ども教室」は、前身の「地域子ども教室」が、平成16年から3年間、7カ所で実施されました。事業終了後も、2,3カ所で自主的に活動を継続しているそうです。「子どもプラン」については、行政内部で検討がなされている段階のようです。』



はいはいはい。ご挨拶は置いといて。で、何が言いたいのかな？

『本日この会が、私たちひとりひとりが「地域住民」として、松戸で暮らす子ども達のために何がしたいのか、できるのか、を考え、「一歩」を踏み出すきっかけになったら素晴らしいです。』



あ…はあ…。でも、小学生なんて自分らで友達と勝手に遊ぶでしょう？働く母親もいるけど、そういう子のために学童クラブがあるんだろうし…。親も、学校も、“学童”もあるのに、なんでわざわざ「地域住民」なの？…って、思った人もいるんじゃないだろうか？！



2007年12月1日の「収穫祭」の様子です。
この日、子どもたちも大人達も、どんなに楽しみ、そして学んだことでしょうか！

大人も子どもも一緒になって、野菜を切り、火を熾す枝を探し、パンを焼き、おにぎりを握って焼き、熱々の炭焼き芋をかじり、ポップコーンや綿菓子メーカーを覗き込み、びゅんびゅんゴマを作って回し、友達とおしゃべりし、初めての人とも挨拶し、笑顔を交す…。

SHARE…シェア…分け合う。共有する感じ、同じ時間・空間を。

大人 vs 子ども、じゃなく、大人 with 子ども。これで良い。こうやって大人と子どもはつながっていくんだって感じでした。

子どもが楽しそうに笑っていると、きっと大人も自然に微笑んじゃうんです。

だから 大人 vs 子ども じゃなく 大人 with 子ども